



アーツサポート関西 **ASK** PRESS RELEASE

2022.10.17

記者発表

アーツサポート関西「コクヨ文楽支援寄金」による 「ワンコイン文楽 2022」実施について

登壇者（敬称略）

黒田 章裕	コクヨ株式会社 会長
竹本 織太夫	文楽 太夫
吉田 玉助	文楽 人形遣い
森岡 勲	公益財団法人 文楽協会 事務局長
崎元 利樹	公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会 理事長

会場：国立文楽劇場（旧文楽茶寮）

コクヨ株式会社が第4代目の支援企業としてバトンを引継ぎ、3年ぶりにワンコイン文楽が再開されます。

アーツサポート関西（ASK）は、大阪が世界に誇る、ユネスコ無形文化遺産「人形浄瑠璃文楽」の次世代への継承を目的に、公益財団法人文楽協会（※）が行っている「そうだ文楽へ行こう！！ワンコインで文楽」を、その開始時の2014年より、継続して支援してまいりました。若い世代の方々を対象に、500円のワンコインで、国立文楽劇場の文楽公演をご覧くださいこの「ワンコイン文楽」は、ご賛同いただいた企業からの寄付をもとにファンドをつくり、そのファンドから助成するもので、この度、その第4期目の寄付のバトンを引き継ぐ形で、コクヨ株式会社様がファンド「コクヨ文楽支援寄金」を設け、ワンコイン文楽を支援していくこととなりました。

当初は2020年～2021年度の2年間にわたり、実施する予定でしたが、2020年に世界を襲った新型コロナウイルスの影響により、2020年度および2021年度のワンコイン文楽の実施は見送りとなり、今回、3年ぶりに、「コクヨ文楽支援寄金」からの支援によって、ワンコイン文楽の再開の運びとなりました。

ワンコイン文楽は、公演前に芸員から文楽の見どころを聞くことができるレクチャーも好評で、今回より、対象者の年齢を、従来の18歳～30歳から、15歳～35歳に拡大し、より多くの若い世代の方々に文楽を鑑賞してもらえるようになりました。対象公演は、国立文楽劇場で行われる11月公演と来年1月の初春公演になります。（※実施日は次ページを参照ください）

これまで2014年度～2019年度の6年間に、このワンコイン文楽の取り組みを通して文楽を鑑賞した若者は、年間約500人にのぼり、6年間の参加者の総数は3,000人を超えます。

まさに、ワンコイン文楽の取り組みは、未来の文楽を支える次世代の鑑賞者のすそ野づくりに、大きく貢献してきたと言えます。

コロナ禍により、文楽本公演の観客数はコロナ前と比べ減少傾向にあり、学生たちは、大学の授業さえオンライン化されるなど、リアルな観劇から遠ざけられてきました。ワンコイン文楽の再開は、大阪の伝統芸能「文楽」を未来につないでいく上で、大きな意味をもつものと考えております。

※2014年度～2018年度は特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座が「ワンコイン文楽」事業を運営しておりましたが、2018年に同法人の解散にともない、2019年度より公益財団法人 文楽協会が事業を継承しています。

「ワンコイン文楽」の実施に関するお問合せ先

公益財団法人文楽協会 担当：水落学 TEL：06-6211-1350 / 090-2106-4578
Email: mizuochi@bunraku.or.jp

「ワンコイン文楽」実施概要

事業名：	「そうだ、文楽に行こう！！ワンコインで文楽」
事業者：	公益財団法人 文楽協会
寄付者：	コクヨ株式会社（500万円をアーツサポート関西に寄付し「コクヨ文楽支援寄金」を設置）
助成者：	アーツサポート関西（公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会）、「コクヨ文楽支援寄金」より助成
助成額：	500 万円（2022 年度 250 万円、2023 年度 250 万円）
会場：	国立文楽劇場（2022 年 11 月および 2023 年 1 月の文楽本公演中に実施予定）
対象者：	近畿圏に在学・在勤・在住の 15 歳～35 歳の方（国籍は問わず）
参加費：	500 円（文楽観劇料、レクチャー代、資料代含む）

2022 年度「ワンコイン文楽」対象公演（カレンダーに ● 記載の日）

11 月公演							
2022 年 11 月	月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
申込：2022 年 10 月 21 日 [金] 17 時まで							

初春公演							
2023 年 1 月	月	火	水	木	金	土	日
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
申込：2022 年 11 月 10 日 [木] 10 時から 2022 年 11 月 28 日 [月] 17 時まで							

「ワンコイン文楽」申込方法

専用ウェブサイトからオンラインでお申込み <http://www.bunraku.or.jp/onecoin/>

◎対象

近畿在住・在勤・在学の 15 歳～35 歳の方
または、近畿圏にある大学や専門学校に通っている学生
お一人からでもお申込み可能です。
※ただし、申し込み人数の合計が 5 名に満たない回はレクチャーを行わない場合があります。

◎内容

- ①開演時刻の 1 時間前に国立文楽劇場(大阪・日本橋)に集合・受付
集合場所は 1F ロビー「巨大かしら」付近です
- ②受付の際に、参加費 500 円をお支払いいただきます
- ③別室で 30 分間のレクチャーを受けていただきます
- ④レクチャーの後は客席へ移動し、文楽をご観劇いただきます
- ⑤終演後はそのまま解散、web アンケートに感想をお寄せください



◎会場

レクチャー・観劇ともに
国立文楽劇場（〒542-0073 大阪市中央区日本橋 1 丁目 12-10）
地下鉄（堺筋線・千日前線）「日本橋」駅・
近鉄線「近鉄日本橋」駅下車 7 号出口より徒歩 1 分



◎申込方法

専用ウェブサイト
(<https://www.bunraku.or.jp/onecoin/>)
からお申込みください。



◎ご注意

年齢及び参加資格確認のため、下記のいずれかを参加当日、受付にてご提示ください。
(運転免許証、パスポート、学生証など、顔写真付きで生年月日が記載されているもの)
・年齢及び参加資格が確認できない場合は、正規の入場券代をお支払いいただくことになりますのでご注意ください。
・公演当日無断欠席された場合は、同じ方の以後の申し込みは受付いたしません。
・参加者数が上限に達した場合、申し込み期限より早く締め切る場合があります。定員は各回 30 名を予定しております。

◎その他

◇お申込後、5 日以内に、ワンコイン文楽事務局よりご連絡をいたします。こちらからのご連絡はすべてメールで差し上げますので受信できるように設定しておいて下さい。
◇各回(各日、各部)とも定員は 30 名です。また、レクチャーの最少催行人数は 5 名とさせていただきますので予めご了承ください。
◇ご希望の日程が上記以外でも、公演期間中であれば調整可能な日程もあります。
ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



ワンコイン文楽の特徴 技芸員による直前ミニレクチャー付き。
はじめての文楽鑑賞が「一生記憶に残る一生の思い出」になります。

■ ワンコイン文楽の最大の特徴は料金の安さ。若者でも気軽に参加できるようにと、わずか 500 円の「ワンコイン」で、国立文楽劇場の文楽本公演（通常料金 5,500 円）が鑑賞できます。

■ 「ワンコイン文楽」は、はじめて文楽を観る人を想定し、はじめての文楽鑑賞が、いかにその人にとって実りある鑑賞体験にすることができるか、という観点を重視。

■ 毎回、公演直前に、これから出番を控える技芸員たちが文楽の見どころを語るミニレクチャー（約 30 分）を実施。レクチャーでは技芸員たちが、伝統芸能・文楽の特徴と魅力、これから鑑賞する物語のあらすじ、鑑賞する際のみどころなどを、若者たちに熱く語りかけます。

■ 文楽のミニレクチャーによって、知識を仕入れた状態で観劇するため、はじめて文楽を見る方でも、文楽の魅力に触れて、はじめての文楽鑑賞がとても特別な「一生記憶に残る一生の思い出」となります。

■ 近畿圏在住の 15～35 歳の方であれば国籍を問わず、誰でも特設サイトからオンラインで気軽に申し込むことができるのも大きな特徴です。オンラインでの申込ができる手軽さから、ネットや SNS で大きな反響を呼び、定員を超える申し込みをいただく回も少なくありません

これまで趣旨にご賛同いただいた 3 社からご支援をいただき、3 期 6 年間にわたり継続してきました。

「ワンコイン文楽」は、これまで 2014 年～2019 年の 3 期 6 年間にわたり実施。2014 年-15 年の第 1 期は京阪神ビルディング株式会社様による「京阪神ビルディング文楽支援寄金」、2016 年-17 年の第 2 期は岩谷産業株式会社様による「岩谷産業文楽支援寄金」、2018 年-2019 年の第 3 期は丸一鋼管株式会社様による「丸一鋼管文楽支援寄金」から、それぞれ 500 万円（年間 250 万円 x 2 年）を拠出し、3 期・6 年間で総額 1,500 万円の支援を行ってまいりました。

このワンコイン文楽の取り組みを通して文楽を鑑賞した若者は、1 年間あたり約 500 人にのぼり、6 年間の参加者の総数は 3,000 人を超えます。まさに、ワンコイン文楽の取り組みは、未来の文楽を支える、次世代の鑑賞者のすそ野づくりに大きく貢献してきたと言えます。

第 1 期 「京阪神ビルディング文楽支援寄金」（2014-2015 年度） 250 万円 x 2 年間 500 万円

第 2 期 「岩谷産業文楽支援寄金」（2016-2017 年度） 250 万円 x 2 年間 500 万円

第 3 期 「丸一鋼管文楽支援寄金」（2018-2019 年度） 250 万円 x 2 年間 500 万円

第 4 期 「コクヨ文楽支援寄金」（2022-2023 年度） 250 万円 x 2 年間 500 万円

※1 期あたりの参加者は約 500 人。第 1 期～第 3 期の 6 年間の参加者合計は 3,000 人以上

参加した方々の声（前回 2019 年度のアンケート結果より）

Q 文楽技芸員による「事前レクチャー」はいかがでしたか？

- ・ 床本を語っている太夫の姿を見て感動しました。目が熱くなりました。
- ・ 日本の伝統芸能がすごく魅力的に感じました。裏で仕事をする方の話も聞きたいと思いました。
- ・ 公演では太夫さんが間近で語られていて迫力を感じました。
- ・ 見どころを解説していただいたので、演目をより楽しむことが出来てとても良かったです。
- ・ 質問に何でも気軽にお答えいただきました。こうした機会をいただけて大変嬉しかったです。
- ・ 今まで何回か参加しています。毎回技芸員が変わるので回を重ねるごとに新しい発見があります。
- ・ 説明を受けて文楽を観ると、人形の細やかな動きにも注目することができました。
- ・ 時代物と世話物の「笑い」の違いを実演してくださったのが、大変面白かったです！
- ・ 太夫の方の普段の声と、腹から出す声との差に、しびれました！
- ・ 見台の模様になぜ竹が多いのか？友人にぜひ教えてみたいと思った面白い知識でした。
- ・ 三味線の音が、登場する女性の年によって違うというお話しが、とても面白かったです。
- ・ 初歩的なことからご説明をいただき、イメージが付きやすかったです。ありがとうございました。

Q 「ワンコイン文楽」に参加されて、いかがでしたか？

- ・ 話が進むにつれて鬼気迫るものがあり、怖さを覚えつつも、どんどん引き込まれていきました。
- ・ 多くの学生に出来るだけ文楽を観て欲しいと思っています。また参加したいと思います。
- ・ 500 円でレクチャーもあり、観劇もさせていただき本当に贅沢な企画だと思います。
- ・ 周りから文楽は難しそうだし金額が・・・という声を聞くので、この企画をぜひ続けていただければと思います。
- ・ 過去に何度も参加しています。本日はもっと若い人に文楽を広めたいと友人を連れて来ました。
- ・ この機会がなかったら文楽を観に来ることはなかったと思います。とても良い席で観られて良かったです。
- ・ 今日初めて文楽を観ました。バックステージも見学できてとても良かったです。
- ・ 初めて文楽を観るきっかけになるので、どんどんやっていただきたいです。
- ・ 話が理解できないのではと思っていましたが、字幕もあって問題なく、物語に引き込まれました。
- ・ 太夫さんの語りと三味線の音、人形のリアルな動きが合わさり、立体的な生の舞台を堪能しました。
- ・ 今まで触れてこなかった日本伝統芸能のことをもっと知りたいと思いました。
- ・ 文楽には「見に行くハードル」と「理解するハードル」の2つがあるので、このような機会は大変ありがたいです。
- ・ 文楽が初めてでも「ワンコインなら」と気軽に気持ちで参加できるのがとても良かったです。また来ます。
- ・ 小学校の校外学習で来て以来です。そのとき理解できずにいたのが、今回いろいろな「気づき」がありました。
- ・ 500 円という価格だけでも、足を運びやすかったです。面白かったので今度はチケットを買って観に来ます。



人形浄瑠璃文楽とは

人形浄瑠璃は明治時代に隆盛を極め、明治初期には複数の興行元が興行を行っていた。その後興行元が文楽座のみとなったため、現在の人形浄瑠璃「文楽」は、人形浄瑠璃の上演を行ってきた大阪の一座である「文楽座」の系譜を引く芸能である。人形浄瑠璃とは、物語に節をつけて聴かせる浄瑠璃に、演奏として三味線が用いられ、古くからあった人形操りと結びついた、「太夫」「三味線」「人形遣い」の「三業」から成る三位一体の芸能である。語りの名人であった竹本義太夫が大阪に竹本座を開き、近松門左衛門が書いた戯曲を上演し、たいへんな人気を呼んだことで、今につながる形ができた。

人形浄瑠璃文楽は、他に類のない独自のスタイルを持った人形劇として、2008年にユネスコの無形文化遺産となった。

公益財団法人 文楽協会

人形浄瑠璃文楽の保存及び普及を図るために1963年に発足。文楽の公演、伝承、後継者育成、普及啓発事業に取り組む。国立文楽劇場及び国立劇場での本公演、青少年を対象とする文楽鑑賞教室、若手公演をはじめ、文楽協会主催の地方公演などを通して文楽の振興を図っている。

また文楽の保存及び普及を図るため、将来を担う若手技芸員への技量の伝承活動などについて、積極的に協力、助成を行うほか、文楽の技芸員を目指す文楽研修生や研究生に対して円滑に研修、指導が受けられるよう助成を行っている。

竹本 織太夫（たけもと・おりたゆう）

【芸歴】

昭和58年6月 豊竹咲太夫に入門、豊竹咲甫太夫と名のる

昭和59年10月 文楽協会研究生となる

昭和61年3月 素浄瑠璃の会「傾城阿波の鳴門」の巡礼おつで初舞台（国立文楽劇場）

平成5年6月 文楽鑑賞教室「団子売」のツレで文楽初舞台（国立文楽劇場）

平成30年1月 大阪・国立文楽劇場において、六代目竹本織太夫を襲名、
「摂州合邦辻〜合邦住家の段」で披露

【受賞歴】

平成13年7月 平成12年度因協会奨励賞

平成16年1月 第32回(平成15年度)文楽協会賞

平成18年3月 平成17年度大阪舞台芸術新人賞

平成19年4月 第35回(平成18年度)文楽協会賞

平成19年4月 第26回(平成18年度)国立劇場文楽賞文楽奨励賞

平成21年4月 第28回(平成20年)国立劇場文楽賞文楽奨励賞

平成21年9月 大阪文化祭奨励賞

平成23年2月 平成22年度咲くやこの花賞

平成25年3月 第34回松尾芸能賞新人賞

平成25年9月 平成25年度大阪文化祭賞グランプリ

平成30年1月 2017年関西元気文化圏賞ニューパワー賞

平成31年4月 第38回(平成30年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞



吉田 玉助（よしだ・たますけ）

【芸歴】

昭和55年7月 吉田玉幸に入門、吉田幸助と名のる

昭和56年4月 朝日座で初舞台

平成30年4月 国立文楽劇場において、五代目吉田玉助を襲名

【受賞歴】

平成12年7月 平成11年度因協会奨励賞

平成13年1月 第29回(平成12年度)文楽協会賞

平成15年1月 第31回(平成14年度)文楽協会賞

平成16年9月 平成15年度因協会奨励賞

平成19年2月 平成18年度咲くやこの花賞

平成20年2月 平成18年度因協会奨励賞

平成20年4月 第27回(平成19年度)国立劇場文楽賞文楽奨励賞

平成23年8月 大阪文化祭奨励賞

平成27年3月 第34回(平成26年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞

平成31年4月 第38回(平成30年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞

令和2年3月 令和元年度大阪文化祭賞〈第一部門〉



アーツサポート関西（ASK）とは



アーツサポート関西（ASK）は、2014年に、関西経済界の旗振りにより、**寄付を集めて関西の芸術文化を支援**しようと、公益財団法人関西・大阪21世紀協会に事務局を置く形でスタートした**100%民間の取り組み**です。

これまで、**約1億5000万円の寄付**を集め、美術、音楽、舞台芸術、伝統芸能の分野において**200件以上のアーティストや団体等を支援**してまいりました。

アーツサポート関西は、民間ならではの芸術文化支援を目指し、アーティストに寄り添いながら支援をする「**伴走型支援**」と、寄付者の意向にそった支援を行う「**ファンド型支援**」の二つを大きな特徴としています。特に「伴走型支援」においては、コロナ禍において、活動の内容変更や実施延期が相次ぐなか、アーティストたちの状況に応じた柔軟な対応を行い、**アーティストや団体から多くの感謝**の言葉をいただきました。

寄付集めにおいては、持続性のある寄付財源の確保につとめており、自販機の売り上げの一部が寄付となる**自販機寄付**や、古本やブランド品の買取額が寄付となる**モノ de 寄付**、クレジットカードのポイント還元が寄付となる**ポイント寄付**など、さまざまな寄付集めを行うほか、今年4月より、公益財団法人の取り組みとしては先駆的な**クラウドファンディング型助成**を始めました。

また、寄付者と芸術文化の表現者との相互交流こそが新しい芸術文化のあり方につながるものだという考えから、**サポータークラブ**をもうけ、支援者に芸術の現場に足を運んでもらう**パトロンプログラム**の取り組みなども積極的に行っています。

